

Key  
Person



(株) GM トランス 代表取締役

# 蒲野 禎幸

蒲野社長は、一つひとつの仕事に全力で向き合い、  
圧倒的な熱量でプロとしての役割を果たしている人物だ。  
建設事業者として現場に立ち、経営について日々学ぶのはもちろん、  
「人として」謙虚で堅実で誠実であろうとする点が、社長が重んじていることの一つ。  
それは、今まで支えてくれた人たちを絶対に裏切れない、という思いがあるからだ。  
かつては不誠実な裏切りを受けた経験もある中、社長を信じ応援してくれる人もいた。  
だからこそ、自身も人を支え助ける側の、実直な人間でありたいとの思いがある。  
この篤実さが社長自身、そして『GM トランス』の信頼と成長につながっているのだろう。

「常に人を支え、恩を返せる人間でありたい。  
この思いを軸に日々全力で生きています」



協会社である「株式会社 終工業」(左)と「株式会社 明陽」(右)の皆さん



株式会社 GMトランス

愛知県岡崎市欠町石ヶ崎下夕通5番地1

URL: <http://www.gmbook7.com/>



株式会社

石原組

愛知県額田郡幸田町大字高力字明治23番地

URL: <https://ishiharagumi.com>

## 熟練の技と情熱で、理想の土地

愛知県岡崎市を拠点に、造成工事を中心とした総合建設業を手掛けている『GMトランス』。技術力と経験、そして熱意で以て全力で顧客の希望に応えんとする仕事ぶりで、確たる信頼を得ている企業だ。そんな同社の蒲野社長のもとを、タレントの布川敏和氏が訪問。インタビューを行った。

### 学業修了後から3社で経験を蓄積 さらなる成長に向け独立

——蒲野社長は、いつから建設業界にいらっしゃるのですか。

高校卒業後からです。地元の建設工事会社に入り、10年ほどがむしゃらに経験を積みました。しかし、お世話になっていた部長さんが亡くなられて。先行きについて悩んでいたタイミングで、水道工事会社が新たに土木事業を立ち上げるとのことで声を掛けてくださり、転職することに。現場での施工はもちろん、営業にも奔走するなど様々な勉強させていただきました。

——着実にキャリアを積んでおられますね。その後は？

30歳の時に、宅地造成を手掛けている会社から「力を貸してほしい」と誘っていただき、3社目の職場に移ることになります。それまでに身に付けてきた技術・経験を活かしながら、約15年必死になって働きました。そして独立し、この『GMトランス』を立ち上げたんです。

——それだけ豊富な経験をお持ちで、職場では重要なポストにも就かれていたと思います。独立にはどんなきっかけが？

それまでの3社で全力で仕事に取り組み、勤めのできることはやり切ったと感じました。また、コロナ禍ではありますが、自分に力があるなら時流に関係なく仕事は取れるはずだと思ったんです。実力を試してみたい、と。以前の職場の先輩たちが「そろそろいいんじゃないか」と、背中を押してくれたことも大きかったですね。そして、これからはプレイヤーではなく、次の世代の道しるべとして役割を果たしたいと、決意しました。

### プロ意識の高さと誠実さで 常に学び全力で日々と向き合う

——御社の事業内容を詳しくお聞かせく



「GMトランス」で手掛けた施工実績の一例

『GMトランス』代表取締役  
『石原組』取締役副社長

蒲野 禎幸

中学生時代、新校舎の建設現場を見て建設工事に興味を持つ。そして工業高校を卒業後に建設会社に就職。偶然にも、母校の建設工事を手掛けた会社だったという。そこで約10年、転職先の水道工事会社の土木事業部で数年、そして宅地造成の会社で約15年の経験を積み独立。『GMトランス』を設立し現在に至っている。

## 活用をカタチにするプロ集団

ださい。

宅地造成のプロとして、土地活用のお手伝いを行っています。例えば、相続した土地の駐車場利用などですね。企画・提案から、設計・測量、施工・管理、アフターケアまで、ワンストップで手掛けられることが強みです。相続税対策についてなどのご相談も承っていますよ。施工は外での作業ですから、自然が相手の仕事であるとも言えます。気候などは思うようにはいきませんし、その中でお客様の求める完成形に向け、納期厳守で進める必要がある。そのためには職人さんをはじめ、仕事に携わる様々な人たちと、同じベクトルで協力し合うことが、最も重要です。

——「人」が肝になるわけですね。重要であり難しいところだと思います。

そうですね。十人十色ですから、簡単にはいきません。互いを支え合う姿勢、謙虚さや誠実さなどがあってこそ、信頼が生まれ協力関係が築かれると思います。私自身がそのような姿勢を意識し、毎日の

一つひとつのことに感謝の気持ちを持って行動しています。

——ご立派な姿勢だと思います。

私も若いころは生意気だったものですが(笑)、様々な学びを経て、経営者としても人としても、日々成長することができています。決して人を裏切らず、自分自身の芯がブレなければ、たとえ環境が変わっても人と助け合いながら成長していけるのではないのでしょうか。人を騙すよりも、助ける側に回れるほうが、生きている価値があると思っています。

——男気と信念を感じます。今後については、いかがお考えですか。

長男が、建設業界に進み経験を積んでいます。まずは息子には「甘くないぞ」ということを伝え、背中を見せたいです。私自身、今なお日々向上心を持っていますし、「明日死んでも良い」という覚悟で仕事に臨んでいます。そうして私にできる役割を果たしながら、会社の土台を固めて未来につないでいきたいですね。

(取材/2022年7月)

### After the Interview

「蒲野社長は、長く業界で働く中で人に裏切られたり逃げられたりといった、つらく厳しい経験もしてこられたそうです。それでも社長ご自身は、決して曲がったことはせず徹底して誠実に人と向き合っておられます。また、お世話になった人たちに恩を返していきたいとおっしゃっていました。社長のご立派な人柄が窺えた対談でした」

布川 敏和・談



タレント

布川 敏和

1965年8月4日生。15歳でジャニーズに入り、1981年にテレビドラマ『2年B組仙八先生』でデビュー。1982年には本木雅弘と薬丸裕英の3人で「シブがき隊」として歌手デビューも果たす。『踊る大捜査線』などのドラマや映画、バラエティーでも現在幅広く活躍中。